

協賛 株式会社パン・パシフィック・
インターナショナルホールディングス



「ウェルナー・ヒンク」 メモリアルコンサート

Werner Hink Gedenkkonzert

ウィーン・アンサンブルVIMCA ～スペシャルコンサート～
我らのウィーンの巨匠を偲んで



曲目

【第1部】

J.ハイドン：弦楽四重奏曲第77番「皇帝」op.76-3

J.Haydn：Streichquartett Nr.77 "Kaiser" op.76-3

W.A.モーツァルト：フルート四重奏曲二長調 K285

W.A.Mozart：Quartett für Flöte und Streichtrio K285

【第2部】

W.A.モーツァルト：クラリネット五重奏曲イ長調「シュタラー」K581

W.A.Mozart：Quintett für Klarinette und Streichquartett "Stadler" K581

J.シュトラウス2世：南国のばら

J.Strauss II：Rosen aus dem Süden

J.シュトラウス2世：エジプト行進曲

J.Strauss II：Egyptische Marsch op.335

J.シュトラウス2世：ポルカ「浮気心」

J.Strauss II：Leichtes Blut op.319

出演者

ウィーン・アンサンブルVIMCA

パヴェル・クツミシェフ	ヴァイオリン
シーラ・エプシュタイン	ヴァイオリン
グンター・グレッセル	ヴィオラ
ヴォルフガング・ヘルテル	チェロ
マティアス・シュルツ	フルート
クリストフ・ツィムパー	クラリネット

※出演者・曲目が変更になる場合がございます。

全席
指定 6,000円

チケット販売

チケットぴあ
(2024年12月16日発売開始)

お問い合わせ

株式会社ミュージックパートナーズ
TEL.048-538-0304 (平日10:00~18:00)
info@music-partners.jp

2025年2月10日月19:00開演(18:30開場) よみうり大手町ホール(読売新聞東京本社)

■主催：一般社団法人ウィーン国際音楽文化協会

■後援：オーストリア大使館 / オーストリア文化フォーラム東京

ウィーン・アンサンブル VIMCA

ウィーン・フィルをはじめ、ウィーンを代表するオーケストラのトップメンバーによるアンサンブル。古くからの音楽仲間達による弦楽四重奏団とフルート、クラリネットによる特別編成のアンサンブルで、ハイドン、モーツァルトからヨハン・シュトラウス2世まで本場ウィーン一流の演奏を披露します。特に2025年はヨハン・シュトラウス2世生誕200年の記念すべき年。ヨハン・シュトラウス2世の楽しい曲も取り入れ、息の合った演奏とパフォーマンスをお届けします。

Pavel KUZMICHEV



パヴェル・クツミシェフ (ヴァイオリン)

ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団

芸術家一家に生まれ、6歳から故郷のキーウでヴァイオリンを始める。1999年、モスクワ・チャイコフスキー音楽院を卒業後、オーストリアに移住。ウィーン国立音楽大学でG.ピヒラー教授に師事。ロシアとオーストリアの「シュテファン・ホール」コンクールで優勝。近年、ソリストとして、また室内楽奏者として、ヨーロッパの主要な舞台で大成功を収めており、数多くの著名なアーティストやアンサンブルと共演している。2004年よりウィーン・フィルハーモニー管弦楽団のヴァイオリニスト。

Gunter GLOESSEL



グンター・グレッセル (ヴィオラ)

リンツ・ブルックナー管弦楽団首席奏者 /
ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団(ゲスト)

8歳でヴァイオリンを学び始め、12歳でヴィオラに転向。グラーツ国立音楽大学とウィーンの国立音楽大学、ザルツブルクのモーツァルテウム音楽大学にてヴィオラを学ぶ。1996年からはウィーン国立歌劇場管弦楽団やウィーン・フィルハーモニー管弦楽団に客演。2004年からはリンツ・ブルックナー管弦楽団のソロ・ヴィオラ奏者として活動している。アンドレス・オロスコ=エストラーダ指揮、ペルリオーズ「イタリアのハロルド」やデニス・ラッセル・デイヴィス指揮、モーツァルトの「ヴァイオリンとヴィオラのための協奏交響曲」などのソリストを務める。

Matthias SCHULZ



マティアス・シュルツ (フルート)

ウィーン国立歌劇場管弦楽団 / ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団団友

ウィーン国立音楽大学にて父親でありウィーン・フィル首席フルート奏者故ヴォルフガング・シュルツ教授の元で学ぶ。ソリストとしてウィーン・トーンキュンストラ管弦楽団、ザルツブルグ・モーツァルテウム管弦楽団、リンツ・ブルックナー管弦楽団、ウィーン室内管弦楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団等と共演。ヨハン・シュトラウス2世が設立されたウィーン・ヨハンシュトラウス管弦楽団首席奏者も務めている。オーストリアフルート協会会長。ウィーンのオーケストラを担う若いソリストと達により結成されたパオレ・ウィーン木管五重奏団のリーダー。

Werner HINK



ウェルナー・ヒンク氏

ウェルナー・ヒンク氏は、ウィーン・アカデミー(現・ウィーン国立音楽大学)でフランツ・サモイル教授に師事し、1964年ウィーン・フィル第一ヴァイオリン奏者、1968年第一ヴァイオリン首席奏者、1974年にはコンサートマスターに抜擢され、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団のコンサートマスターを2008年まで34年間務めました。世界中継されるウィーンのニューイヤーコンサートでは、コンサートマスターとしてロリン・マゼールとのドゥオを演奏するなどクラシック界ではお馴染みの世界を代表するヴァイオリニストとして活躍しました。後進の指導にも当たり、ウィーン国立音楽院教授も務め、マラー・ユゼント・オーケストラ他、ウィーン・フィルのメンバー等、彼の息のかかった優秀な多くの音楽家を輩出し、室内楽では、ウィーン弦楽四重奏団のリーダーも務め、新ウィーン八重奏団ではウィーン弦楽四重奏団がその弦楽部を受け持つようになり、ウィーン・フィルの室内楽活動の中心として活躍し、多くの録音も残っています。世界で愛された巨匠、ウェルナー・ヒンク氏は惜しくも今年5月21日ウィーンの自宅で永眠しました。

Shira EPSTEIN



シーラ・エプシュタイン (ヴァイオリン)

ウィーン・シュトラウス・フェスティバル・オーケストラコンサートミストレス

7歳でヴァイオリンを始め、2016年、ウィーン市立音楽芸術私立大学修士課程を優秀な成績で修了。ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団のオーケストラ・アカデミーでコンサートマスターを務め、ウィーン国立歌劇場とウィーン・フィルハーモニー管弦楽団と期間契約を結んでいる。2015年から2022年にかけてウィーン・フォルクスオパーの第1ヴァイオリン奏者兼第1ヴァイオリン首席奏者を務めたりサイトルではオーストリア国営放送で生中継され注目を浴びている。

Wolfgang HAERTEL



ヴォルフガング・ヘルテル (チェロ)

ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団

7歳でグラーツの音楽院でレッスンを受ける。16歳よりグラーツ国立音楽大学に編入しA級取得後、ウィーン国立音楽大学でヘルツァー教授に師事し、2001年に優秀な成績で卒業。1998年にウィーン・フォルクスオパーのソロ・チェロ奏者としてデビュー。2003年よりウィーン・フィルハーモニー管弦楽団のチェリスト。室内楽ではウィーン・フィルの弦楽四重奏団「シュトイデ・クアルテット」のチェリストでもある。個人所有のチェロは1807年マルティン・シュトス作。

Christoph ZIMPER



クリストフ・ツィムパー (クラリネット)

ウィーン国立音楽大学教授

2004年よりフランス・メントン音楽院で学び、2005年よりウィーン国立音楽大学にてヒンドラー教授に師事。国・州主催コンクール「プリマ・ラ・ムジカ」入賞。ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、ウィーン国立歌劇場管弦楽団、ウィーン・フォルクスオパー等にて、ピエール・ブーレーズ、ロリン・マゼール、ズビン・メータ等の指揮者で演奏2011年よりミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団アカデミーメンバー。元ザルツブルグ・モーツァルテウム管弦楽団首席奏者。ウィーン国立音楽大学クラリネット科教授に就任。

よみうり大手町ホール

YOMIURI OTEMACHI HALL

〒100-8055 東京都千代田区大手町 1-7-1



アクセス

東京メトロ・都営地下鉄
「大手町」駅C3出口直結、
「東京」駅丸の内北口より徒歩8分

※有楽町の「よみうりホール」と
お間違えないようご注意ください。

